

2018.9.3 日本大学特任教授 石田 東生

国土交通技術行政の基本政策懇談会 第 4 回 話題提供

維持管理とモビリティ

1. 維持管理

- ・道路橋の近接目視点検成果の本格的活用が急務
 - *2 回目ルーティンにおける点検の合理化(コスト削減のための点検不要基準の作成)
 - *Life Cycle Cost が確実に縮減しているかどうかの定量的検証とモデル・メンテナンス・サイクルの構築
 - *ついでながら、点検結果のクリーニング(正しく点検されているかのチェックが必要では)
- ・PFI を促進するような環境整備
 - *点検データその他のデータの質の高い(利用しやすい、信頼できる、...)利用環境の整備： 目的を持ったオープン化、投資先としてのリスク評価
 - *調達契約の合理化： 仕様発注になっているが性能発注に(仕様が決定できるほど現場のことが役所で把握できない。除雪も同様)。複数年契約によるリスク平準化。

2. モビリティサービス

- ・幸せとモビリティ
人の幸せ=生存(命・衣食住)+生きがい(社会的存在としての人間とモビリティ)
企業・地域の幸せ=存続+関係者の幸せ・社会貢献 いずれもモビリティが重要
- ・モビリティの現状
 - ・剥奪されるモビリティ：衰退する公共交通、CO2 削減策、免許返納によりモビリティが剥奪されつつある(ご近所クルマ・低速型モビリティの自動運転化の意味)
 - ・交通手段ごとに分節化されている(自動車、自転車、鉄道、バス、タクシー、...)。それぞれは頑張っているが、個々の頑張りだけでは解決できない課題もあり、存続そのものにも黄信号が点っているように思える。
 - ・モビリティ産業の衰退：モビリティの剥奪の原因でもあり、結果でもあるが都市も地方のいたるところでモビリティ産業が危機に面している(バス・タクシー・トラックのドライバー不足・経営難による路線・サービス廃止、廃業)
 - ・人の幸せ、地域の存続に決定的に重要なら大政策が必要(交通基本計画はあるが十分か?)
- ・モビリティサービスという考え方
 - ・注目が集まっている MaaS (Mobility as a Service) は直接的に展開されなくとも、その基本的考え方は参考になる。すなわち一つの統合されたサービスとしてモビリティを提供する(多数のモード、計画・予約・決済・評価という一連のプロセス) という考え方は参考になる。
 - ・ところが、わが国においては統合的サービスは得意分野ではなく、MaaS に向けたサービス統合に向けては課題が山積(第 1 回意見メモ参照)
 - ・対象を 1 つ程度に絞った大規模社会実験、産官学連携のプラットフォームの実現が重要ではないか。そのために生産性向上特別措置法に規定された「規制のサンドボックス」の活用が待望される。

- ・自動運転について
 - ・ 自動運転は目的ではなくて、モビリティサービスの提供手段の一つ
 - ・ また、現在主流の自動車自立型の自動運転の将来はそれほど楽観的ではないのではないか（2100 までレベル 5 は難しいといった発言）。路車間協調のシステムが重要ではないか（かつての ITS, スマートウェイ構想のような）
 - ・ ODD (Operation Design Domain) の前もってのうまい発見と定義（レベル 3, 4）と道路整備の高度化
 - 例えば、隊列走行・分合流対応・6 車線化など幹線既存高速道路の大改築
 - 低速型モビリティ・乗り合い型モビリティ（タクシー・バス・宅配便といったカテゴリーを超越するシェア型モビリティ）のための詳細地図・道路施設
 - 道路外の自動運転：港湾・荷受け施設・建設現場、・・・）
- ・省・局を超えた取り組みをどこまで本気で考えるか
 - *MaaS
 - *結節点 ターミナル、ミニハブ(交差点改良)
 - *道路空間のネットワークとしての再配分とまちづくり連携
 - *カーブマネジメント
 - ・シェアリング
 - ・パークレット
 - ・ミニハブ
- ・自動運転・MaaS は人の暮らし、地域の姿、産業のあり方を大きく変えることの認識
 - *都市ビジョン・地域ビジョンとその実現プロセス
 - *NACTO の計画論、他の多くの都市の政策提言・ビジョン・大規模社会実験（コロンバス、ヘルシンキ、・・・）の本気の勉強

3. 最後に、産官学連携、ビッグピクチャ、大規模社会実験の重要性をもう一度

- ・ 産が積極的に投資できるような舞台と環境の整備
 - 参考例と競走相手
 - ◇ 欧州 ヘルシンキ・ロンドン・アムステルダム・パリ・シュトゥットガルトなど多数
 - ◇ 米国 コロンバスモデル
 - ◇ アジア シンガポール、雄安新区、など多数
- ・ そのためにも目指すべき価値に基づいたビッグピクチャの早期の構築
- ・ 大規模社会実験とその理論モデルとデータ最大活用による効率的企画、モニタリングによる共有化・修正
 - 規制のサンドボックス制度の最大活用